

---

# 魔法少女リリカルなのは～ 5つの世界の旅～ キバの戦士

城戸 輝零

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは〜5つの世界の旅〜キバの戦士

### 【Nコード】

N59900

### 【作者名】

城戸 輝零

### 【あらすじ】

キバの世界にある日、神様が現れ、『キバの世界も合わせて、5つの世界を救ってほしい』と頼まれた。  
この5つの世界を救うべく、キバの戦士は、旅に出た。

始まり〜キバの世界〜(前書き)

作『よろしくおねがいします』

## 始まり〜キバの世界〜

ここは、とあるキバの世界、ここには、キバの戦士が2人いた

一人目の名は、『水澤 ユイ』性別女の子

二人目の名は、『九条 かずね』性別男の子

この二人は、やがて、5つの世界を守った。戦士になる二人であった。

しかし、今の二人は違って、『こんな世界はやくなくなればいいのに』と考えている二人であった

こんな二人を変えたのが、この事件であった。その事件のぜんぼうを明らかにしよう

ある日・・・

かずね『はあ、こんな世界早くなければいいのに』

ユイ『本当ね、私達が戦ってもだれも、ありがとも言わない、こんな生活もういやだわ』

(この二人は、一緒の家で暮らしていた)

大家『かずね、ユイ大変だ、敵達が暴れているぞ』

(二人の正体は、大家さんだけが知っている)

ユイ『それは、本当ですか、大家さん』

大家『ほんとうじゃ』

かずね『行って、なにか変わるんですか』

大家『一応助けに行つて、『ありがとう』って言われたら嬉しいじゃろ』

ユイ『かーずーねー行こうよ』

かずね『ユイが言うんだっいたらいこうかな』でれー

ユイ『はやく、誰かが傷ついていたら、駄目なんだから』

かずね『わかった』

ユイ『ちゃんと、分かっているじゃない』

二人は、敵が暴れていた、広場に到着した。

ユイ『敵、本当にいるよ』

かずね『変身だ』

ユイ『キバーラ』『変身!!--』

かずね『キバット』『変身!!--』

キバット『ガブツ！！』 『キバっていくぜ！！！』

キバーラ『カブツ！！！』

キバ（かずね）『おいおい、その奴隷ども、そんな事をやめな  
いか』

キバ（ユイ）『もう、かずねそんな事いつちやだめじゃない』

キバフォーム

キバ（かずね）『分かった、かかって来い』

『ガルルフォーム』

フィンガイア『うぎゃああああ』

キバ（かずね）『はっ、』

キバ（ユイ）『かずね、必殺技やって、きりがない』

しょうがないという顔をするかずね

キバ『分かった！、必殺技『ガルル・ハウリングスラッシュ』』

フィンガイア『うぎゃあああああ』

そして、フィンガイア達は、どこかへ逃げていったのである？？

キバ（かずね）『解除』

キバ（ユイ）『解除』

これで、キバの変身を解除できるのである。

『かずね、おみごと、それに、かつこよかったよ』

大家『かずね、ユイ頑張ったな、さあ夕食にしよう。』

ユイ・かずね『はい』

夜中……

コッソ、コッソ

ユイ『かずね！！おきて、変な音がする』

かずね『なんだよー変な音だと？』

そんなわけないという顔をして、眠そつに起き上がる。

ユイ『本当だつてば、ほら』

コッソ、コッソ

かずね『こっちに来る、ユイは、布団の中に入ってる！！』

ユイ『うん』

???'「ここの」

ガチャ

かずね『泥棒め』

??『うぎゃああああ』

昔野球で使っていたバットで、??のお尻と頭を殴っていたのであつた……

かずね『どうだ参ったか』

??『よく見るのじゃ』

かずね『?』

よく見るのじゃといわれても、知らないものは、知らない……という顔をするかずね&ユイ

??『私は、神です』

ユイ『本当に神様?』

??『ほんとうです』

かずねとユイはまだ信じられていない……

神一（泥棒）『おいおい、泥棒つてなんだ』

ユイ『だって、泥棒のように入ってきたじゃん』

神一（泥棒）『それは、本当じゃけど、二人に折り入ってお願いがあるんじやが、聞いてくれんかの』

かずね『別に、いいけど!』

この世界はなくなると思って、かずね&ユイは、ちゃんと聞いていた……

神一『二人には、ある世界を救ってほしいんじやが』

ユイ『ある世界って、何?』

神一（泥棒）『その世界は、リリカルなのはの世界とWの世界と響鬼の世界と電王の世界とディケイドの世界だ』

ユイ『リリカルなのはってあのリリカルなのは???高町なのはちゃんが主人公の世界だよね……私ファンなの!』

神一『そうじやよ、この、キバの世界も守りつつ、他の5つの世界も守ってくれんかの?』

『キバの世界も合わせて、6つの世界を旅をして救ってほしいんじやが』

かずね『俺は、いいよ!その世界の人たちを救いたい』

ユイ『私もいいよ、かずねと同じ気持ちだし』

俺と、ユイが同じ気持ち……それだけで、かずねの顔が赤めく・

・・・

神一（泥棒）『じゃあ、早速行ってもらうかの』

かずねは少し考えてから、

かずね『ちよつと待った、この世界の事放っておいて、大丈夫なのかな、時間を止められるわけでもないのに、』

神一（泥棒）『その事は、大丈夫、時間を止められます』

ユイ『それいいねー最近の業かな???』

・・・最近の業????????

神一（泥棒）『次の世界（リリカルなのはの世界）では、名前は、何にすかの?』

かずね『俺は、ジユン』

ユイ『それいい名前、私は、ミュウ』

神一『分かった、じゃあ、ジユンとミュウ頑張ってくださいあとでスパイス名は、あとテキトーにきめておくからの・・・』

ミュウ『分かりました。キバの戦士として、まず、リリカルなのはの世界を救って参ります』

ジユン『俺も、ミュウと一緒に、リリカルなのはの世界を救って参りたいと思います』

神一（泥棒）『うん、よく誓ったな、だが、救ったらまた、迎えに来る』

ミュウ『ちよつと待って、住むところは何処？それに、着替えはどうするんですか』

神一（泥棒）『大丈夫、高町なのはちゃん、のお家の近くです。それに、着るものも食べ物も、充実しているから大丈夫ですよ』

ジュン『ミュウ用も、俺用もあるんだな？』

神一（泥棒）『ちゃんとありますよ』

ミュウ『じゃあ、二人で行ってくるね』

ニコニコしながら言った……………

神一（泥棒）『いつてらしゃい』

水色のオーロラが現れた……

神一（泥棒）『この中に入って、出れば、リリカルなのはの世界に入れる』

ミュウ・ジュン『分かった』

二人は、水色のオーロラの中に入った。

神一（泥棒）『うまくいけばいいんだがな、下手した時は、助け

なければな  
『

始まり〜キバの世界〜（後書き）

作『ありがとうございました』

リリカルなのはの世界〜キバの戦士〜

ミュウ『ここが、リリカルなのはの世界なのね』

ジュン『あそこに、いるのが、高町 なのはちゃんじゃないかな』

なのは『リリカルマジカル!〜!』

『どうしてももうまくできないな、もう一回やってみよう』

ミュウ『敵、居ないじゃん』

ジュン『聞いてみよう』

ミュウ『あの、あなた、高町 なのはちゃんだよ』

なのは『なんで、私の名前を知っているの?』

ジュン『神さまから、この世界を救うようについて言われた仮面ライダーさ』

なのは『もしかして、白鬚のおじいちゃん?』

ミュウ『そうだよ』

なのは『今、本当に助けてほしいことがあるの、』

ミュウ『なに?』

なのは『この私の世界では、なぞの、物体が、人々を驚かし、殺すという、ひどいことをする物体が居るといふ情報です』

ジュン『そいつを倒せば、このリリカルなのはの世界は、平和になるなら、戦おう！！』

なのは『わかった、じゃあ、最初は、私の家に来て』

ジュン『じゃあいくよ』

こうして二人は、なのはの家に行く事になったのである

30分後・・・

ミュウ『ジュン早く行こうよ！！なのはちゃん待っているかもよ』

ジュン『分かったから、ちょっと待って』

そのころ、なのはの家では・・・

なのは『ミュウちゃんとジュンくんまだかな？』

桃子『なのはお友達はまだなの』

なのは『まだみたい』

桃子『分かったわ、』

2分後・・・

なのは『どうぞ、お入りください』

ミュウ『凄いおうちね』

それもそのはずだ、なぜなら庭付き一戸建ての二階建て。庭には池と倉庫らしき建物があるからだ

ジュン『すげーな』

桃子『なのはのお母さん

桃子『いらっしやい、ミュウさんに、ジュンさん？まあいい名前ね』

二人『ありがとうございます』

なのは『お母さん私達裏山に行く』

桃子『わかったわ、夕食までには、帰ってきなさいよ』

なのは『はい』

裏山・・・

ミュウ『ここが、なのはちゃんの実習所なの？』

なのは『そうだよ、じゃあジュエルシード封印を解くね』

『栄えたる響き、光となれ許されざるものを封印の輪に、ジュエルシード封印

リリカルマジカル。封印すべきは忌まわしき器、ジュエルシード封印

リリカルマジカル。ジュエルシードリアル〜封印』

ジュン『何それ？、役に立つの？』

なのは『たまたま、役に立つと思うよ』

ミュウ『じゃあ、よろしくね』

あぶない、敵には注意！！（前書き）

作『よろしく、お願いします』

あぶない、敵には注意！

なのは『ここから、数百メートルさきの、土手で、敵が現れました。』

ミュウ『そうなんだ、分かった、じゃあ、さきにその土手に行ってみて、何か証拠がない確かめよう』

こうして、なのはとミュウは土手に向かったが、ジュンはお留守番、何かあったら、キバーラが知らせに来ます

ジュン・・・

ジュン『ナンだよ、ナンだよ、置いて行って、ひどいな、でも俺はミュウ（ユイ）の事が好きだからいいや、でも、なのはちゃんて子ちょっと、髪の毛の結び方変じゃなかったかな』

そんなの、つくづく思う作者であった。

もう、ジュンなんて放っておこうと作者であった。

なのは、ミュウ・・・

ミュウ『ハクツション！！！！』

なのは『大丈夫？、風邪ひいた？、もしかしたら、噂された？』

ミュウ『分からないけど、大丈夫、土手ってここだよね』

なのは『そつだよ、つてあれつて、敵じゃない？』

ミュウ『本当だ、変身するよ』

なのは『うん』

こうして、2人は戦う事になったのである……

ミュウ『変身』

キバーラ『カプツ』

なのは『リリカルマジカル!!!』

2人は、変身を完了させたのであった。

ミュウ『キバーラ、ジュンのところへ行って、助けを求めなさい』

キバーラ『承知しました』

なのは『行け』

キバ(ミュウ)『おいおい、そのへなちよこ!!、かかってこい  
いや』

敵『はあ?頭いかれてるんとちゃうか』 わからないけど、関西弁  
弁デーす

なのは『スターライトブレイカー(Starlight Breaker)』

ドカーン……

ミュウは感心していた。

そのころ、ジュンは……

ジュン『遅いな、まだかな』

キバーラ『大変、大変、ユイが敵と戦っているの、助けて、助けて』

ジュン『うん、分かった、キバット変身だ、』

キバット『ハロー』

ジュン『変身』

キバット『ガブツ』

『キバットいくぜ』

バイクを取りに、駐車場へ、（いたって普通です）

ジュン『早く行かなきゃ』

キバーラ『早く、早く、急げ』キバーラは少しKYだった

そのころ、なのはとミュウは……

なのは『がんばろ……もう駄目かも』

ミュウ『ダークネスムーンブレイク』

なのは『何で技が効かないのよ』

ミュウ『さあね』

ブロンブロン……

ジュン『待たせたな、行くぜ行くぜ』

ジュン『必殺技、バッシャー・アクアトルネード』

敵『うぎゃあああああああだれか、助けてくれ』

この直後、敵は死んだ

ジュン『ミュウ大丈夫かよ、！！、馬鹿目！！！！』

ミュウ『そんな事ないでしょ、』

なのは『ありがとう、敵は死んだ、これでまた、平和が来る、勇敢なキバの戦士達よ、ここに残ってくれませんか？』

ジュン『そのお気持ちはありがたいが、でも、まだ救わなくて

はいけない、世界が3つも残っています、その3つの世界が「救われたら、またきます、それまでさようなら」

なのは『もう行くのですか?』

ミュウ『うん、お別れのときがきた、なのはちゃん桃子さんによろしくね』

なのは『うん』

水色のオーラが現れた・・・

その中に2人は入った、

神（泥棒）『はろーよくリリカルなのはの世界を救ってくれたな』

ミュウ『今度の世界は、どこ?、それに名前ユイに戻したいんだけど』

神（泥棒）『Wの世界じゃ、名前?いいぞ』

ユイ『ありがとう』

ジュン『あのさ、おれは、カズにする』

神（泥棒）『分かった、じゃあWの世界に行っておいで、キバの戦士達よ』

ユイ ・ カズ 『 分かった、行つてきます』

こうして、2人は、『魔法少女リリカルなのは』の世界を救い、  
今度は、Wの世界を救う事になったのであつた・・・

あぶない、敵には注意！！（後書き）

作 『いろいろ、名前が変わってすみませんでした。』

Wの世界・・・

ユイ 『ここが、W世界だね!!!翔太郎さんと、フィリップさんがいる世界だね!!!』

カズ 『そうだね、ユイって・・・ドコで調べたの???何の知識もなかったのに』

どこからか、バイクが来た・・・まあ、警察官の巡回と云って  
もいいのか言っては駄目なのか

そこから降りてきた人物が居た、その人物が不意に声をかけられたのであった。

翔太郎 『えっと、君達誰だね、見かけない顔だね俺、探偵事務所を経営している左書太郎よろしく!』

見かけない顔で悪かったわね・・・ってか、何で、知らない人に声をかけられなければならないんだか・・・ってか、翔太郎さんかい!!!!!!

ユイ 『私達は、仮面ライダーキバ、Wの世界を助けに来ました』

翔太郎 『マジで、助けに来てくれたの?、じゃあ、俺達の探偵事務所に来てよ』

こういつキャラじゃなかった気がするけど???まあ、そんな事は置いていて・・・

カズ 『はい、ユイ行こうな』

ユイ 『うん、で、フィリップさんは？』

何故この子達は、フィリップを知っているんだ??どこかで調べたのか??それだけが今不明だ！

翔太郎 『事務所にいるよ、多分また検索しているんじゃないかな?』

ユイ 『では、行きましょう』

つてか、ユイちゃんって言う子なんで、ここから、事務所までの道順を知っているんだ??パソコンでも使って調べたのか???

探偵事務所……

ユイ 『こんにちわ、フィリップさん』

フィリップ 『今、君について検索中だ』

私??何故急に私??何故知っている??名前も……??つてまだ言っていないんだっけ??

ユイ 『???.?』

翔太郎 『フィリップいい加減にしるよ』

カズ 『まあまあ、いいじゃないですか』

心が広いな・・・君は・・・どんだけ広いつて感じ何だよ！！  
！！もう！！！！！！

フィリップ 『結果が出たよ、君は水澤 ユイ、11歳 A型で  
好きな人は、フィリップ？ 僕？？』

ユイ 『超恥かしい、好きな人ばれちゃった！！フィリップさん  
検索するの止めてもらえませんか？？』

ユイの好きな人昔は俺って言うていたのに・・・あれから変  
わったんだな・・・ユイの心もフィリップさんに奪われてしまっ  
たんだな・・・どうしよう！！！！

カズ 『ユイの好きな人は、フィリップさんだったんだ』

・・・

フィリップ 『じゃあ、次は、君について、検索する』

ユイ 『フィリップさん、カッコいい！！！！』

おいおいおいおいおいそこ！！！！頭いかれていないか  
？？

カズ 『ユイ、お前俺の事好きじゃなかったのかよ』

ユイ 『それは、昔の話でしょ』

むっかし〜むっかし〜のお話です

なんか、歌になっっているし!!!歌を即興に作る天才か???ここにはいるのか?????

翔太郎『まあ落ち着いて』

フィリップ『結果が出た、君は九条 かずね通称カズ12歳 B  
型で好きな人は、水澤 ユイです』

ユイ『私?、何で?』

カズ『可愛いし、前向きだし、おちよこちよいだし』

ユイ『あのね、おちよこちよいって・・・失礼』

ユイの言葉をさえぎり、翔太郎が

翔太郎『敵が現れたとの情報だ!!!戦いに行くぞ!!!相棒  
!!!!!!』

フィリップ『行こうか??、』

<サイクロン・ジョーカー>

変身って、言わなくても変身できるんだね初めて知ったかもしれ  
ない!!!!!!なんか凄いやうで凄くないやうなこと!!!!!!

ユイ『キバーラ行くよ』

キバーラ『カブツ』

カズ『変身！！！』

カズはちゃんと言ってるけど・・・それに、私言ってた気がするんだけど・・・？でも変身できているよね！！おかしいな！

キバット『ガブツ！！、キバって行くぜ』

・・・

W『あれが、敵？あんなに多いよどうしよう』

キバ（カズ）『約200体、何とか、できるかもしれない』

カズは一応心配性だけど、勇気があるときは勇気があるからな・・・

・・・

キバ（ユイ）『どうにかできる！！私が帰ってくるまで、戦っていて、すぐに仲間を呼んでくるから』

W『分かった、じゃあ、待ってるよ、ハニ』『D』フィリップ

W『気持ち悪いぞ、フィリップ！！！』

キバ（ユイ）『じゃあ、行ってくるね』

ここに、水色のオーラが現れた・・・

キバはそのこに入り、リリカルなのはの世界へと行った

なのは『暇だな』

キバ『なのはちゃん』

なのは『ミュウさん』

ミュウとは、カリの名前ごめんなさい！！！！なのはちゃん！！！！  
！！少しでもだましていました！！！！

キバ『私の本当の名前は、ユイだから、でも、そんなことより、  
ちよつと助けてほしいことがあるんだけど来てくれるかな？』

なのは『分かったわ、ユイさんのためなら何でもする！！！！ユイ  
さんは、私の世界を助けてくれた恩人だもの！！！！』

キバ『じゃあ、この光の中に入って！！』

は~~~~~い

W『やばい、体力が微妙だぞ』

キバ（カズ）『何だよ、その言い方』

Wの世界にも、水色のオーラが現れ、その中から、さっき仲間を  
迎えに行ったユイとその他の1人が現れた

キバ（ユイ）『なのはちゃん連れてきたよ』

なのは『ハロー？、セットアップ』

キバ（ユイ）『今は私達二人で、戦うから、二人は後ろに下がっていて』

二人『はい』

・・・

なのは『えつと、スターライトブレイカー+（Starlight Breaker Plus）』

敵『うぎゃあああああ』

この攻撃で敵が、40体死んだ

なのはが来るまでの、わたちの成果は、100体 っことで、あと160体です

キバ『ダークスネムーンブレイク』

敵『うぎゃあああああ』

この攻撃で、敵が50体死んだのかな???? 私には予測がつかないものだからね!!

なのは『結局、私の出番ね』

???????

なのは『デivainバスター・エクステンション（Divine

Buster Extension)です』

敵『うきゃ？ぎゃあああああああああああ』

この攻撃で、40体死んだ・・・

あと、約80体うようよいまーす』

という事で、また次話でお会いしましょう

両思い・・・（前書き）

作『みなさん、見てくださりありがとうございますとございました。』

両思い・・・

会話中・・・

なのは『助けには来たけど、あまり役に立てなくてごめんなさい  
！！！！！』

キバ（ユイ）『結構役に立っているけどな』

W『そつだよマイハニー』dyフィリップ

なのは『ハニー？誰のこと？』

キバ（ユイ）『フィリップ！！！！やめなさい』

なのは『もしかして、『ハニー』ってユイさんの事だったのか  
だったら、カズさんの恋もこれでお終いだね、！！でも、フィリッ  
プさんとユイさんは両思いなの？』

フィリップ『YES』dyフィリップ

キバ（ユイ）『フィリップ黙っていないさい』

なのは『両思いなんだな』

カズ『・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・』

シュン



W 『YES!!!!!!!!!!!!!!』

なのは 『スターライトプレイヤー (Starlight Breaker)』

キバ (ユイ) 『凄いな、尊敬しちゃうわ』

そう言っている間に、敵は全部消えた……

なのはは、リリカルなのはの世界にもどり、『また助けてほしい時はいつでも言ってくね』と言ってくれた、

翔太郎 『また来いよな、フィリップのハニーとやら』

フィリップ 『待っているからね、マイハニー、そして、助けに行くから、君のためならどこへでも行くから、いつでも呼んでね』

ユイ 『フィリップありがとう、遠慮なく呼ばせてもらっよう』

カズ 『ありがとう』

翔太郎 『おいおい、カズ!!! 元気がないな、どうした、好きな人をフィリップに取られたのか?』

カズ 『そうです』

ユイ 『好きな人って誰なの?』



ユイ『ありがとう翔太郎さん』

翔太郎『二人が好きなる訳が分かったぜ』

フィリップ『翔太郎でも、まだまだ、ハードボイルドには遠いな』

翔太郎『いいよ別に』

ユイ『じゃあね、ペンダントありがとう』

水色のオーラが現れてその中に二人は入った

神（泥棒）『久しぶりじゃの！！よく、2つの世界を救ってくれた、という事で、魔法を使えるようにしてやるう、』

ユイ『それ本当！！！！』

神（泥棒）『本当じゃ、魔法は、リリカルなのは世界のものじゃ、この本をよんで勉強するが良い』

カズ『ファイイ』

神（泥棒）『今日は、自分達の世界にもどり、ゆっくりと休むがよい、では、明日迎えにいくからの』

ユイ・カズ『ファイイ』

両思い・・・(後書き)

作『ちよっと、フィリップのキャラが壊れてしまいました』

## 響鬼の世界（前書き）

作『前の話で、フィリップ壊れまくりですみませんでした』

## 響鬼の世界

ユイ『ここが、あの響鬼の世界か〜いい世界だなでも平和じゃないんだね』

カズ『そうだね、自然がいっぱいあるね』

敵『うびゃ?』

ユイ『敵!!!!!!』

カズ『ん?仮面ライダーが来る!!!!』

ユイ『もじゃ、!!!!仮面ライダー響鬼?』

カズ『そうかもね!!!!』

ブロン・ブロン・ブロン・・・

響鬼『おいおい、何やっているんだ?あほずらめ』

ユイ『響鬼だよ〜あれ〜』

カズ『本当だ!!!!!!、』

敵『うびゃぎゃ?』

響鬼『これ以上!!!!街の人を困らせる奴は、仮面ライダーの俺が許さない』

敵 『?????!?!?!?!?!?』

響鬼 『火炎連打の型』

ドンドコドンドコ……

敵 『うぎゃああああああ』

ユイ 『すげ〜強い』

響鬼 『終了!?!?!』

ユイ 『あの、響鬼さんですよね??.?』

カズ 『!?!?!』期待している

?? 『俺は、仮面ライダー響鬼だけど、本当の名前は、たかはら高原 そ爽汰うたですけど、何で、俺のことを知っているんだ?』

ユイ 『あの、白髭じじい居たでしょ!?!?!あの人に頼まれてきた仮面ライダーです』

爽汰 『助けに来てくれたの?もしかして、自称神?』

カズ 『多分、俺の世界では、泥棒神って呼ばれているかな』

ユイ 『そっだよ、泥棒神』

爽汰 『本当だったら、普通の神さまなのにかわいそうだね』



力の曲流れたり〜

敵『?????』

キバ（カズ）『レッツゴー』

キバ（ユイ）『ダークネスムーンブレイクだよ』

敵『うぎゃあああ』

この攻撃で、10体やられました。

キバ（カズ）『では、ガルルフォームになり』

『ガルル・ハウリングスラッシュです』

敵『うぎよよぎよぎよ』

爽汰『強いね、凄い!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!』

『変身』

響鬼『必殺技は出せないけれど、戦えるよ』

どうやって、戦うんだ、一（蹴る、殴る以外）DY作者

## 響鬼の世界（後書き）

さ  
というところで、ユイとカズは、響鬼の世界で、戦う事になったと

**響鬼の世界で変身だ!!! (前書き)**

作『毎日、投稿しているけど、大変でもういや』

ユイ『じゃあ、やめれば???』

作『嫌!!! では、第7話始まります』

響鬼の世界で変身だ!!!

敵『うぎゃあああああああ』

爽快『いつけ』

まかせつきりかよ……

キバ（ユイ）『ダークスネムーン・ブレイク』

キバ（カズ）『こっちもだ、ダークスネムーン・ブレイク』

敵『うぎよよよよよよよよよ』

この2人の、活躍によつて、敵が、居なくなった

ユイ『そうだ、敵を追わなきゃ』

カズ『キバツト、追つてくれ』

キバツト『了解!!!』

パタパタ……

らーんらんらんらんらん

敵『はあはあ』

敵のボス『響鬼を倒したか?????』

敵『倒せませんでした』

バシッ!!!

敵のボス『ばか者!!!、倒さないと、後で、厄介な事になるのだぞ』

敵『すみませんでした』

陰から、キバットが見ていた

一方、・・・

カズ『キバット、大丈夫かな????』

バタバタ・・・

キバット『あのさ、カズ、分かったから、ユイも連れてきて』

カズ『はいはい、分かりましたよ、キバットバット3世さん、』

キバット『来て、来て』

そして、洞窟

敵『どうすれば、勝てるのだろうか』

う〜ん、毒???.、道具???.、武器???.?

ユイ『変身!』

キバラー『カブツ!』

カズ『変身』

キバット『ガブツ!、キバット、行くぜ』

敵『わああ、キバだ』

キバット『ダークスネムーン・ブレイク行け行け!』

キバ（カズ）『ダークスネムーン・ブレイク!!!!!!!!!!!!!!  
!!!!!!!!!!!!!!』

敵『.....』

敵、死亡 原因・必殺技直接あたり、死亡

敵のボスは、気づいていない様子でした.....



ボスは、以外に弱い??? (前書き)

作『魔法少女リリカルなのは』5つの世界の旅、キバの戦士、  
は、ようやく、第8話目になりました、これから、よろしくお願  
いします』

ボスは、以外に弱い???

ユイ『!響鬼!!!!!!そういうば、もう敵っていないの???'』

カズ『?????'』

.....

響鬼『分からない、ボスがまだいる!!!』

カズ『そうだね!!!!!!』

ボス『ワツハハハハハハハハハ!!!!!!!!!!!!』

ユイ『知的障害者?????'』

.....ユイ!!!!!!言い過ぎじゃないか???  
???

ボス『言ってくれるな姉ちゃん』

受け流された

響鬼『いくぜ!!!!!!ベイベ!!!!!!!!火炎連打の型』

ドンドンドンドンドンドンドンドンドンド

ボス『いつて〜倒れちゃうぞもつ』

子供?????

ユイ『あほ?????つてか、子供?????』

カズ『やめろ!!!!!!』

ユイ『変身!!!!!!キバーラ!!!!!!』

キバーラ『カプツ!!!!』

キバ（ユイ）『カズ!!邪魔!!!!!!』

ガーン 役に立とうと思ったのに

キバ（ユイ）『ダークスネムーン・ブレイク』

ボス『負けた〜降参 白い旗』

ピラピラ!!!!!!

やっぱり、子供……………

カズ『怠け者』

ユイ『子供、ってか、弱すぎでしょ』

.....

爽汰『やめなよ、ボスは捕まえたから安心だ、もう、僕一人で出る!!! 次の、世界で行っていいよ』

ユイ『本当??????』

カズ『本当????????????????????』

爽汰『うん、大丈夫だよ、』

神『ユイ!!! カズ、よく、頑張ったの!!! 次の世界は、電王の世界じゃ、行ってくるがよい!!!、爽汰久しぶりじゃの!!!!』

爽汰『ハろ〜自称神!!!』

神『あのな〜、では、あと、頑張るんじゃよ』

爽汰『うん!!!』

がんばれ!!!、爽快

カズ 『神!!!行こう!!!』

神 『じゃあの!!!爽快』

バイバーイ

電王の世界、” 良太郎は???どこに” (前書き)

作『読者の皆さまお久しぶりです。このごろ忙しくて、更新できませんでした。申し訳ありません、では、魔法少女リリカルなのはく5つの世界の旅くキバの戦士第9話目始まります』

電王の世界、” 良太郎は????どこに”

神『ここからが、電王の世界じゃ!!!お願いだ、助けておくん  
なさい』

???????神????あのうるさい神が・

ユイ『は〜い』

カズとユイは、赤のオーラの中に入った

カズ『ここが、電王の世界か!!!!、以外にいい世界かもしれないな』

ユイ『カズ!!!!あれ!、野上 良太郎じゃない?????』

野上 良太郎って、どつかで!!!あつ!!!!不幸少年って、凶鑑に載っていた気が……

えっと、この電王のストーリーは、突如空から降りそそぐ謎の発光体。ただ1人、目に砂が入ったと目をこする少年、野上良太郎を除いて誰も気づかない……。世界一運に見放された少年、野上良太郎。今日もトラブルを起こして不良グループにボコボコにされてしまう。しかし彼が奇妙なパスを拾ったことから物語は始まっていく。良太郎はイマジン・モモタロスの力を借りて仮面ライダー電王に変身、イマジンとの戦いに身を投じていく。というストーリーだったな

ユイ『野上 良太郎さんですよね』

つてあつ!!!

カズ『ちよつと、ユイ!!!!!!待ってよ』

あゝ、ユイは落ち着きがないな

良太郎『???誰???』

僕が説明したほうがいいのかな?

カズ『えつと、ユイ僕が説明するよ!!!、えつと、神様に、  
『キバの世界も合わせて、5つの世界を救ってほしい』と言われて、  
そつだ、神知つてる???』

良太郎『知っているよ、僕が前に敵がいっぱい居るから、  
『仮面ライダーでも連れてきて、助けて』っていったんだ、今も、敵がい  
るから、助かるんだけどね』

!??

良太郎<sup>モモタロス</sup>『!??何だ???こいつどつかで見ただことがあるんだけどな  
』

!??

ユイ『私たちは、仮面ライダーキバ、良太郎!!電王の世界を助け  
に来た、キバの戦士です!』

?????

モモタロス 良太郎 『キバか……!? イマジンがこっちに来る』

マジで〜

カズ 『ユイ! …! 変身するよ』

分かった

ユイ 『変身! …! キバーラ』

キバーラ 『カプツ!』

カズ 『変身! …! キバット』

キバット 『ガプツ! …! キバット行くぜ』

モモタロス 良太郎 『俺も行くぜ! …! 変身! …!』

『俺、参上』

イマジン 『? 誰? …、おお電王ですか』

知っているのかよ

イマジン『こんな奴とつるみやがって』

電王『そんなの、俺の勝手だろう!?!?!』

モモタロスの言つとおり

数分後・・・・・・・・・・・・・・・・

(書くのが、ちょっと無理な、暴言も入るので、一部省略)

電王『いくぜ、イマジン!?!?!、今の俺は、最強だぜ』

はいはい、分かりましたから

イマジン『????行くよ、一応、技使えるんでね』

!?!?マジで〜

ユイ『いまだ、ダークネスムーンブレイク』

ドッカーン

カズ『ユイ!?!?!、ちょっと、隙ついちゃだめですよ』

電王『キバ!?!?!よくやった』

## イマジンがうん百対(前書き)

作『読んでくれている皆さん、いつもありがとうございます。』

ユイ『ありがとうございます。』

作『そうだユイ!!!お正月には、ちょっと、特集版をやるから、カズにも、伝えといてね』

.....

ユイ『は~~~~~い』

作『では、特集版をお楽しみに、ということ、魔法少女リリカルなのは〜5つの世界の旅〜キバの戦士 第10話始まります』

## イマジンがうん百対

良太郎『さっきのイマジンよく倒してくれたね!! ユイ&カズ』

なんか、ユニットみたいになっているような気がするけど、良太郎の事だから、まあ、いつか!

ユイ『でも、もうちょっと、戦えたかもしれないのに!!! イマジンって、結構弱いんだね』

ユイもそう思っているんだ

良太郎『今回ののは、結構弱かったけど、もっと強い、イマジンだっているんだけどな』

そうだったのか、イマジンとは、弱いだけではないのか

カズ『良太郎に聞きたいんだけど、この、電王書には、『今日、イマジンがうん百対攻めてくる』と書かれているんだが.....』

良太郎『電王書は、一応言っておくが、私の日記だ、だから、それは、確かなのだから』

そうなのか.....

ガサツ!!!

!?

ユイ『カズ、変身準備』

カズ『うん、分かっている!!!ユイ!!!』

イマジン『ほう!?!?!電王もおそろいですか??!?!あの手、その、変な少女 少年は、一体なんだ??!?!?!?!』

カズ『一応、言っておく!?!?!俺らは、仮面ライダーだ』

.....がビーン

イマジン『勝ち目ナッシング!?!じゃないの、引きあげるわけにもいかないし、どうすればいいのね』

!?!?

ぞろぞろ

!?!?

良太郎『うん百対いるぞ』

ユイ『「まじだ」』

カズ『戦うしか方法が絶対無いよ』

.....



誰が入るの???

!?

ユイ『変身』

キバーラ『かぶっ』

カズ『変身』

キバット『ガブツ キバットいくぜ』

.....

良太郎は変身しないの???

良太郎『誰が入ってよ!!!!!!』

ウラタロス『じゃあ、ぼくが』

キンタロス『な、俺が』

リュウタロス『僕も入る〜』

モモ『後でいい』

.....

良太郎『ウラいくよ』

<変身>

電王『僕に、釣られてみる???』

!?

キバ(ユイ)『行くよ!!!は~~~~~』

キバ(カズ)『ユイ待つて、てか、ユイを守らなきゃいけないじゃん』

モモ『俺は鬼、弓矢で指され 死んでゆくおおおおいいい句が出来た、あのときの(鬼が島)の、恐怖が残っているから、もう戦いたくね〜や』

そんなことかい、良太郎が、怪我をしてもいつて言うのね

キバ(ユイ)『イマジンなんかだいつきらいだー』

!?

キバ(カズ)『ユイ!!!やめな、みんな怒っちゃうよ』

電王『カズくん、一応、ユイさんは、何か考えているのでしょうから、静かにしていきましょう!~!』

まあそうかも、でも、ユイの事だから

キバ(ユイ)『キバーラ、イマジンたち殴ってきてもいいよ』

パタパタ

キバーラ『ラジャー』

ドツカーンドツカーン

あゝキバーラさん、今変な音聞こえたけど、爆発でも起こりましか???

まあ、それは置いといて、

キバ（ユイ）『そこの、カズと、良太郎君!!! 戦わないの??  
? 私、切れる寸前なんだけど!!! どうして私だけが戦っているの  
』』

あつ、ユイは一応、女の子だったね

キバ（カズ）『ユイを怒らせる奴は容赦しない』

!?

おお、カズが来てくれた

キバ（カズ）『いくぜ』

<ダーク・スネムーンブレイク>

イマジン』うつツト、あぶね』

でも、結構倒せた気がするけど

この残骸はそうすればいいわけ??????

電王『僕も………』

???

ウラタロスだったのが

モモタロスに変わった

電王『待たせたな!!!!、』俺、参上!!!!』

!?

モモが来た!!!!

こうして、3人の戦士がそろったのであった

3人は、最強じゃない??

キバ(ユイ) 『行くよ!!!!おりゃ~~~~~』

...

キバ(カズ) 『うおりゃ~~~~~』

凄い迫力!!!!

電王 『行くぜ行くぜ!!!!』

最近思うようになったけど、やっぱり良太郎にモモタロスと良太郎の性格って正反対だね~~~~なんか、変なコンビかも~~~~

キバ(ユイ) 『うぜ~~~~~んだよ!!!!変態!!!!』

女の子らしいのかな???.この暴言は

多分違うよね

電王 『おおっと、あぶね~~~~じゃないか、俺の出番を邪魔するんじゃない!!!!』

それほど、出番が欲しいんだな

電王 『おっ!!!!ちよっと変わってもぶっで~~~~』

モモタロス 『だから』

ユイ『うるさい』

・・・

モモタロス『だから・・・うげっ！！！！みぞうち一発するんじや  
ないよ』

されたんだよね~~~~~

ってか、弱い

敵のボスは、最強！新たなる戦士……

キバ（ユイ）『もう……うざい……！』

電王『僕も戦いたい……！』

キンタロス『こら……！』

……

キバ（カズ）『ユイ……！そこ危ない……！ボスがいるところだし……』

！？

ボス『おぬしら、以外に強いのかな……！でも、わしのほうが強い……！キヤッスルドラン』

！？

あれって、私たちのキヤッスルドランでしょ……！

どっかで……

キバ（ユイ）『泥棒……！……！』

キバ（カズ）『ピーー』

笛を鳴らした……

いつもは、これに反応するはずなのに、反応しない

キバ（ユイ）『何で、反応しないの???』

キバ（カズ）『知らない!!、多分あやつっているのだろう』

ドッカーン

キバ（ユイ）『強い!!!』

キバ（カズ）『どうすれば、勝てるのか……』

電王『仮面ライダー誰か来ないかな?』

……

それ、却下

ディエンド『お宝あった???』

これは、まさかの、ディエンド

あのディエンドが^

電王『何で、きた?』

……

無視〜

カズ『あの〜一緒に戦ってくれませんかね〜』

ディエンド『うんいいよ!〜でも、僕じゃなくて、この子達にね』

バン

ディエンドライダーで、仮面ライダーを3体出して

ディエンド『僕は、いったん帰るから、この子達で我慢してね』

とって、違う世界へと消えていった

その仮面ライダーたちは、ディケイド

ファイズ

カブトだった

心配性はいや！

キバ（ユイ）『何で、破壊者のデイケイドと、あのカッコいいフ  
アイズと、マイペースなカブトをつれてきたんだ？？』

・・・はあしょうがないか・・・

ってか、心配だな

電王『そうだ、カズ！！また心配していたでしょ！！顔で分かる  
』よ

・・・なんで分かるの？顔に書いてあるの？

キバ（カズ）『ってか、戦わなくっちゃ！！！！デイケイド！！！！  
行くよ』

デイケイドは、必ずうなずく！

デイケイド『早く！！！！行くぞ！！！！考えている暇はない！！！！』

そつだよね、心配性って顔に出るんだ・・・

それに、心配性って嫌な事ばかりだな

もう考えている暇はない！！

キバ（カズ）『おら、うぜーんだよ！！！！』

おらゝの時には、殴り・うぜゝんだよの時には、敵を蹴っていた  
今までの、カズにはありえないことだった……

電王『カズ？どうした？頭いかれたか？』

はい？

キバ（ユイ）『カズ！大丈夫？頭いかれた？』

えっ！それは、誤解だよ……

だから、心配性にならないようにしていただけ！！！！

キバ（カズ）『あの〜後ろに、敵あり！！ってか、戦わなくても  
良いの？』

こついつときは、ユイは『戦うに決まっているでしょ！！カズ！  
戦うよ』

って言うと思うけど……

キバ（ユイ）『いいんじゃない？あの3人に任せれば……  
』

あれ？ユイじゃない？

キバ（カズ）『ユイらしくない！僕は戦うよ！』

！？

カズが……心配性じゃなくなった……

こっぴどくした？

カズに負けてられない！！

キバ（ユイ）『カズに負けてらんない！私も戦うからね』

！！！！

よっしや！！

負けてられない!!!!!!

キバ（ユイ）『めんどくさいけど、戦うしかないんでしょ!!!!!!  
なら、カズに負けられないようにしなくちゃいけないじゃん』

!?

キバ（カズ）『いいから、早く戦おうよ!!! ユイ!』

おっし!!! 戦うぞ!!!!

電王『君倒すよ!!! 答えは聞いてない!』

!?

また変わったような気がする.....

キバ（カズ）『おりゃあああああああああ』

面倒な叫び声.....

キバ（ユイ）『でも、カズ心配性じゃなくなったよね.....

』

だって、克服したんだもん..... 頑張つて

キバ（カズ）『ユイ! 前!!!! 敵!!!! おりゃ!』

一応、言っておく.....

ユイの目の前に、いた敵をカズが気づき、とび蹴りしたのであった

すげー!!!

電王『行くぜ行くぜ行くぜ!!!』

!?

しるるる!!!

## ボス撃破（前書き）

読んでくれている皆さん、ありがとうございます

## ボス撃破

電王「いつでも、クライマックスだぜ！！！！！」

！？

モモタロスが中に入っているんだな………「クライマックス」って完璧に言っているもん

キバ（ユイ）「カズ！キャツスルドランは、どうしたの？」

キバ（カズ）「あつ、キャツスルは、意識を取り戻して、家に帰ったよ！！！」

今まで、あやつられていたからね………意識なかったんだ

キバ（ユイ）「カズ！！、最後に！クライマックス！しようか？」

！？

良いかもその考え！！！！！！

キバ（カズ）「必殺技！！！！！」

キバ（ユイ）「必殺技！！だ！！！」

<ダークスネムーンブレイク>

<ダークスネムーンブレイク>

ドッカーン

!?

ボス『こんな攻撃では……効くぜ』

効くんだったら、最初から、そう言えよ!!面倒な奴だな

電王『必殺技、俺も、決めてやるぜ!!!!』

<エクストリームスラッシュ>

ドオオッカーン

ボス『こんなはずではなかったのに……』

と言って、ボスは、撃破された

## DCDの世界へレッツゴー

ユイ『私たちの使命はここでおしまい！！また見回りといっては変だけど、必ず来るから！！！待っていてね』

カズ『じゃあ！良太郎！孫の幸太郎と一緒に戦って頑張つて！』

こうして、2人は良太郎・モモタロス・ウラタロス・キンタロス・リュウタロスに見送られながら、青いオーラの中に消えていったのである

DCDの世界・・・・・・・・・・・・・・・・

ユイ『ここが、世界の破壊者デイケイドの世界か・・・でも、全く人の気配がしないのはなぜだろうか？』

カズ『えっと、こないだ神（泥棒）からもらった地図では、あの道をまっすぐ行ったら破壊者の家だって』

で、方向音痴のカズがどうしてわかったんだかね・・・それだけが不思議現象なんだな

地図通りいくと、やはり光写真館にたどりついた・・・

ユイ『ここかな？？』

ユイの声を聞いたのかある女性が出てきたその人こそ『笑いのツボ』の技を持つ光夏海であった

夏海『誰ですか？あなた達』

土『中学生か？夏海神来ないな・・・仮面ライダー連れてくると言ったのに・・・だから信用できないんだよ』

信用か・・・もしや今の神ってあの泥棒か？

それをいうな！！とかえってきどうだが、こういう時に現れないが泥棒神の悪いところだ

ユイ『少々訪ねたいのですが、あんた偉そうにしているけど、デイクイドなの？？？それでも、破壊者なの？？？？』

ユイそれを言ったらダメなんじゃないの？？？ってか、大丈夫なのか？？？？

土『おい！！チビ！！俺は。デイクイドだ、それに破壊者だ！それがなにか？？？』

夏海『すみません！光家秘伝＜笑いのツボ＞』

笑いのツボとは、光家秘伝で、首の笑いのツボを押されたものは、当然笑いが止まらないのだ・・・夏海の最強武器といってもいいだろう

土『っはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっはっは』

頭がおかしいな・・・危ないもう近寄らない方がいい

カズ『家間違いました！すみません』



ユイ『この続きは次話で』

終わるのは早くないのか・・・まあ、そんなことどうでもいいのか  
¥ ¥ ¥

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5990o/>

---

魔法少女リリカルなのは～5つの世界の旅～キバの戦士

2011年10月7日23時44分発行